

10 月合宿「長野県飯田ツアー」

◆日時 2017 年 10 月 6 日（金）、7 日（土）

◆コース

6 日（金） 集合（新宿駅西口）→戸隠手打ち蕎麦「あすき」（昼食）→旧山本中学校
杵原校舎見学・授業→旧小笠原書院（重要文化財）&小笠原資料館（Sanna）→旧瀧
澤医院（飯田市有形文化財）→風の学舎（チェックイン）→天竜峡温泉交流館「ごゆ
っくり」（入浴）→風の学舎（夕食、宿泊）

7 日（土） 風の学舎（朝食）→下伊那教育会館、黒須邸（国・登録有形文化財）→
専照寺（梵鐘）、正永寺→飯田城の八間門（移築木下家 飯田市有形文化財）→ATAGO
（昼食）→愛宕蔵見学→古民家「犬塚家」のゲストハウス見学→りんご並木界限散策
→（新宿駅西口）解散

◆参加者 合計 16 名

井元美佐代、風祭千春、勝見紀子、加部千賀子、木村真理子、杉山経子、鈴木久子、
鈴木二葉、佐藤直子、新見美枝子、西岡麻里子、林屋雅江、武藤順子、

※廣田文子、※松山千晶、※吉田洋子（敬称略）

※：幹事



集合写真（木下家の玄関前で）

飯田合宿の報告

新宿からバスで4時間あまり。今回の合宿はとても遠いところになりました。長野県飯田市は大平建築塾に参加したことのある方以外は初めての場所だった方が多かったです。長野や松本と違い、長野県の南部で名古屋や豊橋から近いという位置にあります。始めのうち参加者が集まらず、はらはらしましたが、さすが女性建築技術者の会！総勢16名で飯田ツアーとなりました。コースは左の通りで本当に盛りだくさんな内容でした。また行く先々で熱心に飯田の方たちのレクチャーがあり、とても充実した内容になりました。説明してくださった地元の方は本当に愛情あふれる熱のこもったものでした。その都度時間オーバーで廣田さんが「すみません。遅れます。」と。でもそれでも皆様こころよく待っていてくださり丁寧な説明をしてくださいました。飯田の皆様、本当に感謝です。ありがとうございました。

あいにく金曜日は雨でしたが気持ちは熱くなるツアーでした。またぜひゆっくりもっと見たいというところの余韻が残ったのではないのでしょうか。例えば丘の上であまりゆっくりできなかったので・・・ぜひまた人情あふれる飯田へいらしてくださいね。

（私が7月に横浜戸塚区の柏尾川沿いの下り坂で右足のケガをしてしまい、下見にも一緒に行けず幹事の廣田さんと松山さんには本当にご迷惑をかけました。ここに深く感謝いたします。二日間の合宿には参加できて本当にうれしかったです。18年も仕事で通っている飯田ですが私にとっても知らないことがたくさんわかった新鮮な旅でした。）

（報告 吉田洋子）



旧小笠原書院



風の学舎（宿泊）



夕食のお弁当



丘の上りんご並木

合宿参加者の感想文

◆杉山経子

真っ赤なりんごが実るなか、飯田合宿に行ってきました。2日間に渡る行程では、すべての見学場所で、案内人が解説してくださるという贅沢なものでした。このような幹事の用意周到な準備のおかげで、大変充実した時間を過ごすことができました。

案内人の方々は、皆さま知識豊富で、ご自分が保存活用されている建築や町並みに愛着をお持ちです。その熱心な解説についつい質問してしまい、時間をオーバーしてしまいました(汗)。

なかでも、個人で飯田城二の丸の八間門を所有されている木下家のご当主には、大変感銘を受けました。八間門についての知識は素晴らしく、貴重な資料を基に、廃藩置県後に八間門が木下家に移築される経緯を、丁寧に解説してくださいました。しかも八間門はもとより、本棟造りの木下家のお住まいも、江戸中期から末期に建設された歴史的なものです。この住まいにご自身はあまりこだわられていないようで、飯田城主に関する記録や大正7年作成の家相図も簡単に見せていただきました。私個人は、裏門や塀、庭園も含めて、木下家すべてが貴重で、評価されるべきお住まいだと感じました。高齢なご夫妻が、いつまでもお元気で過ごされることを願っています。

飯田は、昭和22(1947)年の大火で大半が消失されたとはいえ、城下町としての骨格が遺された町でした。近世の飯田は、東端に飯田城が立地し、隣接した西側に武家地、その西側には町人地が細長く広がっています。さらに旧谷川(現在は暗渠)を越えた北側も武家地で、町の周縁が寺院で囲まれた、典型的な城下町の構造を持つ町です。

この合宿では、消失をまぬがれた北側の武家地に現存する、下伊那教育会館や洋館付住宅、蔵や寺院を見学しました。また町人地の周縁に遺る愛宕蔵や、今後民泊として改修再生される犬塚家の町屋も詳細に見ることができました。

一方で、今回時間がなく中心部の町並みを見学できませんでしたが、近世の町人地の遺構を活用した裏界線(りかいせん)を見たかったです。町人地では、通りの両側が同じ町名の両側町となっています。そのため細長い街区の中央が背割りとなり、町名が変わります。幹事の廣田さん配布の資料によると、飯田市では、大火後からその背割り：裏界線を、防災用の細街路として活用しているそうです。さらに大火後の復興計画で、町の中央に大きな通りを設け、りんご並木としたことで、現在の飯田の町並みが形成されたことも知りました。

私にとっての飯田のイメージは、故大平幸子さんの書かれた『アルバムの家』『りんごの家』のみでしたが、今回歴史ある町が持つ、重層的な魅力を堪能することができました。幹事の吉田さん、廣田さん、松山さん本当にお世話になりました。

◆勝見紀子

振り返ってみると、6日の昼過ぎに到着し翌7日の夕刻に離れるまでの正味30時間が、飯田での滞在時間でした。その限られた時間にたくさんの場所を訪問しましたが、そのどこもが興味をそそられるところばかりで、内容濃く飽きることの無い充実した時間でした。どの訪問先も、案内をしてくださった方々の歴史を踏まえたお話が面白く、そこを愛し守りたい

というお気持ちが伝わってきて、個性ある建造物をより身近に感じることができました。特に、スケールの大きな酒蔵「愛宕蔵」、八間門の木下さんのお話し、八幡町の町屋改修の見学が印象深かったです。

実はこれまでも飯田へは何度も出かけていたのですが、町歩きや建物見学の機会はなく、用足しだけで帰って来てしまっていました。坂の多い町だな～くらいにしか思っていなかったのですが、飯田は町の中にダイナミックな段丘がいくつもある稀有な地形の町で、旧跡や歴史建造物、古い家並がそのあちらこちらの丘に点在しているのが、今回よくわかりました。どこに行っても総なまこ壁の蔵が見られたり、老舗らしい佇まいの町屋があったりと、厚い歴史を持ち経済規模の大きな都市だったことがうかがえました。

こんなに充実した行程が実現したのも、下見にまで出かけ方々と連絡を重ね、周到に準備くださった担当のお三人のおかげと、感謝しています！そして思い至ったのは、このような層の厚い地方都市や特徴のある町が日本の各地にあるのだということを、いつも女技会の合宿で教えられるな～ということです。宿泊の「風の学び舎」2階での「ストレッチタイム」や、道中のバスでのおしゃべりも、女技会の旅行ならではの楽しい思い出となりました。

◆新見美枝子

合宿担当の皆さんありがとうございました。

飯田合宿は吉田さん、廣田さん、松山さん3人が企画した女技会らしい手作りの旅でした。吉田さんが仕事で飯田に18年間も通い続け、そこでつながった人達の協力で、その地の人達から沢山話を聞くことができました。皆さんが飯田の歴史や文化に誇りを持ち、それを大切にして今に続く暮らしをしている様子も見せていただき、たった1泊2日なのに飯田の今がわかりとても親しみを感じました。

建築好きで食いしん坊の廣田さんと松山さんは下見までして、私達に美味しいお蕎麦のお店やおしゃれな蔵のレストランで喜ばせてくれました。

木造の校舎でみんなで楽器を鳴らして合唱した時は、声が良く揃っていて気持ちよかったです。

レンタルマイクロバスで運転する中込さんは杉山さんの知人で、不揃いの私達に良くつき合ってくれました。

泊まった「風の学舎」の建物も、地域の人達の手作りでエコの工夫が沢山ありました。食事は、その日が伊豆木の鯖鮓祭りであり担当の二人が買いに走り、丁度食べ頃の一晩ねかした鯖のちらし寿司と薪ストーブで暖めた豚汁との朝食は美味しかったです。暖房は薪ストーブのみ、武藤さんがずっと火の番をしてくれました。雑事はみんなで分担。

私達の部屋は6人の布団を敷くと足の踏み場もなく、左右の人の寝息が顔にかかる近さ。足と頭を交互にして雑魚寝にすれば良かったかな。目覚めは西岡さん指導のゴキブリ体操で始まりました。

中村瑞季さんは古民家を改修して、素泊まり宿とちよい呑み屋を開業する準備をして「暮らすような旅をしてもらいたい」と言っています。過去を生かして未来を創っていく若い人の目が輝いていました。まさに、この合宿も暮らすような旅で、私は大満足でした。又いつか大平さんが眠っている飯田の地の訪問をしたいと思います。

◆西岡麻里子

新宿から高速バスで4時間、あるいは新幹線で名古屋まで行き高速バスで戻るルートか。海沿いの道も山沿いの道も行きにくい内陸に、こんな文化の高い古い歴史の町がある事に、初めて飯田を訪れた人は驚かれると思います。大阪より距離的にはずっと近いはずなのに、未だに首都圏に住む者には遠い場所です。今回、新宿からマイクロバスで連れて行っただけだと聞いて私はそれだけでもう感激。ベテラン運転手の中込さんに安心して身を委ねた快適な2日間でした。

大平集落に通うため毎年飯田市には行っていましたが、今回知らない場所にたくさん連れて行っていただきました。特に印象に残ったのは八間門の羽根庄こと木下家。飯田の殿様が維新後、望んで隠居所に選んだという旧家だけあって、なんとも由緒正しい控えめな気遣いのあるご当主夫妻でした。ご当主の説明を聞きながら、維新前後の時代にあって君主を思う在郷の人たちの素朴な忠誠心はどんなだったのだろうと思いを馳せたひとときでした。

宿泊した風の学舎では、苦勞してこの施設を実現させた地元の人たちとの交流を楽しみにしていましたが、行程の関係で叶わなかったのが残念でした。帰宅後HPを拝見し、よくこんな施設を作りあげたものだと感心しました。2日目の古民家ゲストハウスではオーナーの中村みどりさんのご好意で、着工直前の現場を見せていただきました。この2カ所は飯田に吹く新しい風を感じてこれからが楽しみになりました。その他、お寺や戦前の洋館など、どこも下伊那の中心地たる飯田の誇りを感じさせる見学場所でした。まち歩き時間が少なくなり飯田の街を歩いて地形と歴史を実感できなかったのは残念でしたが、盛り沢山の行程を練ってくださった幹事の皆さんのご苦勞に感謝の2日間でした。

かつて中央線を名古屋まで敷設する時に、伊那谷の人々は豊かな伊那文化圏に鉄道など通してなるものと反対し木曾谷に中央線を通した事で、飯田は近代の発展から少々取り残されたと聞きました。JR飯田線が名古屋駅まで行かず豊橋駅停まり、というのも首都圏の私たちからは不便ですが、現代の経済活動から少し傍流になっているおかげで豊かな自然と独特の風土文化が残ったと言えるかもしれません。改めて伊那谷、信州そして日本における飯田市の位置付けを考える機会をいただきました。合宿幹事の皆様、お疲れ様でした。楽しい企画をありがとうございました。

◆武藤順子

合宿に初めて参加しました。内容の濃い旅で、担当の方々に感謝です。

飯田で出会った案内の方たちは、皆さん素敵な方ばかりで、もっとお話を聞きたかったです。

◆鈴木二葉

天気予報ではそんなに雨は降らないということでしたが、生憎の雨模様の合宿となりました。でも、貸切バスの旅は、雨でも見学したい場所の近くまで運んでくれる快適な旅でした。お恥ずかしい話ですが、飯田という場所が日本地図のどこにあるか全く知らず、はたまた長野県がどの県と接しているかもあやふやな状態の私ですが、その土地の心優しい人々と出会い、美味しいりんごの里にとっても印象的な場所になりました。

また桜の季節に是非この地を訪れたいです。

◆井元美佐代

女技会合宿に初めて参加して、そのハードさゆえ、戻ってからもまだ未消化のままです。

改めて写真を見ながら、飯田のどの方々もとても親切にそして丁寧にご案内戴けた事に感謝致します。飯田の文化や歴史を大切に保存し、愛情を持って守り後世に伝えようとしている実直な姿が心に残っております。

味わい深い蔵があらこちらに残り、かわいらしい林檎並木の町。また訪れたい場所が出来ました。

ご準備下さった幹事の皆様、本当にありがとうございました。



旧杵原学校 授業風景

◆木村真理子

今回も盛りだくさんで、充実した内容の合宿でした。

担当のみなさま、2日間分みっちりの準備と当日のお世話、お疲れさまでした。

ホントにありがとうございました。

地図をみながら、2日間良く動いたなあと振り返ってみると、下伊那教育会館と近場のまち歩きを案内くださった方、旧瀧澤医院の管理をされていた方、小笠原資料館の方、皆さん、雨にもかかわらず遅れて到着する我々を外に出て待っていて出迎えてくださり、丁寧に嬉々として説明してくださるのと名残惜しそうに見送ってくださるのが印象的でした。八間門のご夫妻は、気持ちが若くて素敵なお夫妻でした。家の格式や歴史と人格は相関するのだなあと思った事でした。また、杵原学校の小学校のおんな先生役の方々も、活発で楽しくてチャージングでした。

飯田の文教端のみなさんは、とてもおもてなし上手で、来訪者を気持ちよく迎え入れてくださる方ばかりでした。

飯田の歴史を堪能して、郷土を支えるおばさま方を感じるご飯を食べて、最後はまちの中心市街地にあるエコハウスと柿のミルフィーユ（冷凍庫の半ドライ柿で再現模索中）を楽しみました。宿泊した体験学舎の成り立ちや運営、チラリお邪魔した地域拠点型宿泊施設へコンバージョン中の若い娘さんを応援する素敵なお両親と設計者にも、ゆっくりお話を聞きたいところです。また行ってみよう！

◆加部千賀子

担当者の皆さま、ありがとうございました。女技会らしい心温まる手作りの旅でした。車がないと行けない処に連れて行って頂きました。廣田さんと松山さんが忙しい中での実踏か

ら始まり、バス旅行ならではの参加者の確保・変動での気苦労、それぞれの建物の説明人にアポをとり、工程を組む、当日はお昼の手打ち蕎麦をパスしての買い出し（宴会のおつまみや朝食）など、大変だったと思います。お疲れ様でした。これらは吉田さんが18年間街づくりの仕事で飯田に通い続けたベースがあるからこそその事ですネ。改めて、吉田さん、廣田さん、松山さんに、感謝です！

2日間、盛りだくさんでした。面白い街です。

教育会館では「まずはここから」と飯田市の位置からの熱心な説明です(右図)。飯田市は位置的に本州の中心であること、東に南アルプス、西に中央アルプスに挟まれ、南北に天竜川が流れる谷地形である事、街道の陸運・天竜川の水運に恵まれ、養蚕などの産業・人形浄瑠璃などの文化が発展した事を知りました。豊かな食糧・気候風土により、文化が生まれ継承されたのでしょう。今も、古い街並み・蔵・歴史ある古建築をここかしこに残しており、飯田市民の文化意識の高さも感じます。それは、見学した建物の説明の方がた皆、建物・飯田への愛着・熱意ムンムンで、説明の時間が足りず、名残惜しく分かれたことでも物語っています。

魅力的地形は、丘の上に向かってバスが登って行くとよく分かります。丘とは、天竜川の支流である松川と野底川によって形成された河岸段丘です。段丘の東南の先端からの景色は、断下の市街地が広がり、その先に幾重にも連なった山並み（奥は南アルプスでしょうか）が見られます。

飯田城がこの位置に築かれたのは、敵が攻めてくるか否かが一望できる、自然の要塞だからです。丘は城下町として発展し、断下との暮らしが違っていました。断下の蔵を見学していると、飯田に詳しい西岡さんが「加部さん、コッチに来て～」と。蔵の裏の隙間から、丘が見えます。当時は飯田城が見え、お殿様の存在を常時、感じていたことでしょう。

また、丘には、昭和22年の「飯田の大火」の反省として設けられた離界線の豊かな路地が何本もあります。時間がなく2本しか見られず、残念でした。

お土産に買ったシナノスイートと金つばは、美味しく、充実した2日間を思い出します。機会があれば、再度訪ねてみたい魅力的な街でした。



飯田市の位置



下伊那教育会館の天井

◆松山千晶

新年会で定例会の内容を決めるとき、合宿担当にお誘いいただき今回のお役目につきました。しかし仕事の忙しさにかまけてすっかり廣田さんにおんぶにだっこ、ダメな担当の典型であったことをここに反省します。

とても暑い8月のはじめ、廣田さんと二人で飯田へ下見に行きました。健脚な廣田さんに追いつくのがやっと、という感じでしたが、建築大好きな女二人の珍道中はそれはそれは楽しく、二日間の行程はあっという間に過ぎました。

今回の合宿は、下見にご協力くださった中村みどりさん、りんご農家の松尾さんをはじめ、吉田洋子さんのお知り合いの飯田の方々に大変お世話になりました。

吉田さんが飯田で積み重ねてきた人徳が、私たちを助けてくださったのだと思います。

おかげで、大平さんのお墓参りもすることが出来、お墓から見える風越山をこの目で見ることが叶いました。

二人で廻った飯田の街を、今度は女技会のメンバーとみんなで廻る楽しさを味わうことが出来ました。下見の時、まだ青かったりんご並木は赤く綺麗に色づいていました。

合宿で一番印象に残ったのは「八間門」。個人の住宅にどうしてお城の門が移築されたのか？その謎にまつわるエピソードの面白さ、歴史的資料の貴重さ！それを私たちに伝え残そうとくださる木下さん（所有者さん。元英語教師）の人と歴史を大切にする姿勢は、もてなしの花々や用意してくださっていた資料や茶菓にも現れていて、この方のご先祖様なら、さぞかしお殿さまも一緒に住みたいと思っただろうなと感じました。（明治になり、殿様も江戸の藩邸に移らなければならなかったところを、兼ねてから交流のあった木下氏のおじいさん（漢方医）の自宅に住みたいとのご希望で、敷地内に増築して住まわれた、というエピソード！お二人の交誼が目につかぶようです）

飯田の人々は、この街を心から愛し、ふるさとを自慢に思い、外から来た人たちにこの街の良さを伝えたい！という熱い気持ちを持っています。

私も九州から埼玉に来て早13年。自宅を建て、「ここが新しい地元」と決めた越谷を、同じように愛してその良さを伝えていくことが出来るようになりたいと思いました。



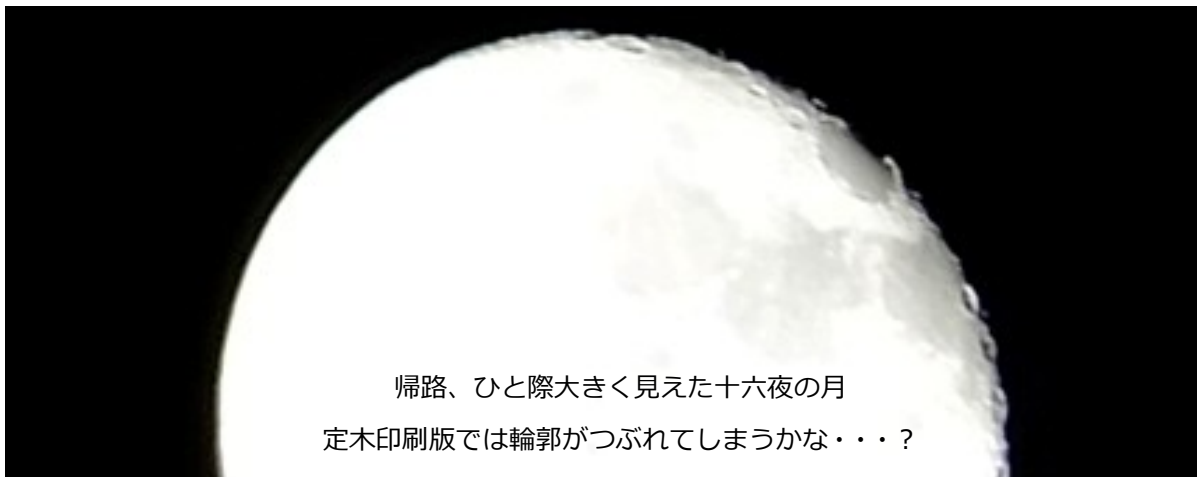
八間門所有者木下様に
貴重な古記録を拝見させて
頂いているところ

4時間半かけて行くのか・・・と知った時、ボーッとしていた頭にスイッチが入りました。合宿先は長野というイメージで捉えていたので、そんなに時間を掛けて行かなければならないところだと思っていたのです。下見に行く際の下調べで漸く気付いた飯田の位置と交通手段の少なさ。高速バスを使って行くしかなく所要時間は4時間半。

そんなに時間を掛けて行くならば、しっかりとした中身にしなければ誰も来てくれないだろう、しかも参加しやすい価格でまとめないと・・・。早速、下見の限られた時間の中で有効にリサーチを掛けるために、飯田を調べ始めました。飯田に関する知見ない私の助けとなったのはインターネット。調べると昭和22年に大火があり、防災を踏まえた復興の歴史がある。大火ではまちの8割が焼けてしまったという。ならば2割焼けていないエリアがあるであろう。その2割がどこなのかということから調べ始め、さらには飯田が時代的にどう興ってきたのかということに関心が廻り、今回は巡れませんでしたが座光寺エリアや郊戸庄の伊那郷エリア、坂西家、小笠原家から飯田城へとリサーチを進めて行きました。

そんな過程を経て、参加の皆さんが飯田のまちを好きになってくれると良いと言う思いで練り上げた今合宿のプランでしたが、欲張りな性格からあれもこれもと詰め込んだ感もあり、「頭の中がパンパン」とどなたかがバスの中で仰っていました。でも、終わったばかりの時は一杯いっぱいでも、少し間が開くと吸収できたことが少しずつ零れ出て来て、仕事や人生に活かせることもあるかと思います。そして、また4時間かけてでも行ってみたいという思いに至って頂けましたら、幸い。私自身は下見準備の折からグーグルのストリートビューで何度も飯田のまちを歩いておりますので、もう勝手知ったる我がまちのような錯覚を得ております。合宿を担当したことで、飯田の良さを知ることができ、これは宝物となりました。

八間門の木下様はじめ、旧瀧澤医院の池田様、旧杵原学校の応援団の皆様、下伊那教育会館の赤羽様、旧小笠原書院の案内を務めて下さった元追手町小学校の教頭先生、正永寺のご住職、飯田市教育委員会の羽生様、犬塚家の中村みどりさんご家族、天竜峡りんご農園の松尾様、下見時宿泊でお世話になったペンションひだまりの皆様、バス運転の中込様、そして参加頂いたジョギ会メンバー、多くの方のお力添えのお陰で、飯田合宿を魅力ある旅にして頂けました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



帰路、ひと際大きく見えた十六夜の月
定木印刷版では輪郭がつぶれてしまうかな・・・？



本棟造りの木下家前で木下ご夫妻を囲んで記念撮影。家が大きいので人間は豆粒の図



初日の昼食「手打ち蕎麦」 美味しー♪



2日目 朝食準備風景
天竜峡農園の松尾さんに差入れ頂いた
林檎各品種食べ比べ

美味しー♪



2日目の昼食
クリン草を
食べて育った
「クリン豚」

美味しー♪